

学校名	大分県立大分南高等学校
-----	-------------

2019年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

九州から届け!!「福祉」南風プログラム開発
～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～

2. 研究の目的

生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーとなることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発を通して、社会福祉の発展を担う職業人を育成する。そして、本研究に基づいた福祉教育の指導の工夫・改善の継続と、小中学生や地域等への福祉の魅力発信の継続が、介護福祉人材の質の向上と量の確保につながる「『福祉（しあわせ）』の好循環」を創生し、持続可能な福祉社会の構築を目指す。

3. 実施期間

契約日から 2020年 3月13日まで

※ 最長で当該年度の3月15日（3月15日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

【研究の重点項目】

- 介護についての先進的な専門性を実践的・体験的な学習活動を通して高めるための、教育内容・指導方法等の研究。
- 大学や地域との多職種協働学習等を通して課題解決力を育成するための教育内容・指導方法等の研究

(1) 先進プロジェクト

研究のねらい

福祉先進国（デンマーク）の視察、講義、体験学習、介護実習等を通して、介護福祉士としての災害時の福祉支援力、介護ロボット等の有用性を活用した技術力、認知症ケアメソッドの研究、外国人支援の「Welfare English」など幅広い知識と、基本的な技能を身に付けさせ、先進的な専門性を高める。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>1-① 災害時の福祉支援力 体験学習</p>	<p>〈目標〉 近年、災害に見舞われた後の福祉的支援が必要な人々の存在が顕在化している。災害時の現状を模擬避難所体験等から学ぶことで、災害時に求められる福祉支援力を向上させる。</p> <p>〈具体的内容〉 ・事例に基づいた災害時の体験学習を通して、介護者や地域等の課題を知ること、解決を図る意欲を向上させる。 【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】 県福祉保健部、社会福祉協議会 【実施場所】 大分南高校</p> <p>〈効果測定〉 ○災害時における体験学習を通じた課題解決力（レポート） ○ポートフォリオ評価（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>1-② 介護ロボット等の 有用性研究</p>	<p>〈目標〉 介護ロボットや福祉用具には、移乗型、コミュニケーション支援型等の機能があり、利用者の自立支援、介護者の負担軽減等の役割が期待されている。その機能や役割等を講義、体験研修、介護実習での実践を通して学び、介護ロボット等を活用した介護技術力を向上させるとともに、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性についての研究を深め、発表をする。</p> <p>〈具体的内容〉 ・コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性を検証する。 【関連科目】生活支援技術、介護実習 【協力機関】大分県社会福祉介護研修センター、ロボットメーカー、介護実習施設 【実施場所】介護福祉施設等 【設備・機器】コミュニケーションロボット10台 ・介護支援ロボット等を活用した「抱え上げない介護技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、介護技術力を向上させる。 【関連科目】介護実習、生活支援技術 【協力機関】大分県社会福祉介護研修センター、ロボットメーカー、介護実習施設 【実施場所】介護福祉施設等</p>

	<p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」の習得状況（レポート） ○介護ロボット等を活用した「抱え上げない介護技術」の習得状況（レポート、介護技術の成果発表） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）
<p>1-④ 福祉先進国視察</p>	<p>〈目標〉</p> <p>福祉先進国（デンマーク）を視察することで、高齢者の福祉と自立を支援する政策や、「アクティブ・エイジング（QOLを低下させることなく、社会参加を続けながら年齢を重ねていくこと）」のプログラム等への理解を深め、これからの社会福祉の発展を担う人材としての資質を高める。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デンマークへ6泊8日の短期研修を実施。デンマークの社会福祉制度の講義や現地の高齢者施設や障がい者施設への視察見学、現地学生との交流、フィールドワークを計画。 <p>【関連科目】全科目</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉先進国（デンマーク）の視察を通じたこれからの社会福祉の発展を担う人材としての資質・能力・理解力（レポート・成果発表） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）
<p>1-⑤ 外国人支援の「Welfare English」の習得学習</p>	<p>〈目標〉</p> <p>大分県は立命館アジア太平洋大学などがあり多くの外国人留学生在が居住している。また、県内の観光地には、外国人観光客も多く訪れる。彼らは近年の大きな災害に遭遇し、言葉の通じない中で不安な日々を過ごしている。また、大分国際車いすマラソン大会は世界的にも有名な大会で、多くの外国人選手が大分県に集まる。このような外国人への福祉的な支援ができるよう「Welfare English」を「コミュニケーション英語」の授業や医療・福祉英語検定を受検することで習得し、外国人留学生への聞き取り調査等で活用し、実践的な英語力を身に付けさせる。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術の場面を想定して英語力を向上させ、実践力を高める。 ・「医療・福祉英語検定（4級）」合格を目指す。 <p>【関連科目】コミュニケーション英語Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分国際車いすマラソンでのボランティア活動を通して英語力を活用し、実践力を高める。 ・大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」や「海外の福祉事情」等

	<p>を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。</p> <p>【関連科目】コミュニケーション技術</p> <p>【協力機関】APUアジア太平洋大学</p> <p>〈効果測定〉</p> <p>○コミュニケーション英語の授業教材として介護技術に関する教材を用いることによる、実用的な英語力の向上（レポート、成果発表）</p> <p>○留学生の福祉に関する困りごとや海外の福祉事情調査を通じた課題解決力（レポート、成果発表）</p> <p>○医療・福祉英語検定の合格者数 4級 30名</p> <p>○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
--	--

(2) 連携プロジェクト

研究のねらい

大学、地域、他の福祉科系高等学校等との連携学習を通して、利用者や地域、多職種の状況、課題等を共有、理解することで、利用者や地域に応じた発想力、課題解決力を身につけさせ、豊かな創造性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>2-①</p> <p>大分大学福祉健康科学部との「介護実践力向上」協働学習</p>	<p>〈目標〉</p> <p>大分大学福祉健康科学部は、福祉医療分野の学部学科との連携を図りながら、福祉実践者の育成を行っている。まさに、介護福祉の理想とする学びを実践している大学である。そのような学びを深めた大学生との協働学習を通して、利用者に対する理解を深め、多方面からの気づきができる観察力をつけ、よりよい援助を行うことのできる援助者になる力をつける。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習中に実施する利用者の「個別援助計画Ⅰ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、利用者のニーズに応じた支援の方法に気づくなど発想力を身につける。 <p>【関連科目】介護過程</p> <p>【協力機関】大分大学福祉健康科学部</p> <p>【実施場所】大分南高校</p> <p>〈効果測定〉</p> <p>○介護実習中に実施する利用者の個別援助計画作成を大学生と協働学習することで気付いた発想力・課題解決力（レポート・成果発表等）</p> <p>○大学生へのアンケート（4段階評価・平均評価3.0以上）</p> <p>○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

<p>2-② 介護福祉施設等との 「地域の福祉課題」解決学習</p>	<p>〈目標〉 地域には、様々な福祉課題が存在する。地域に目を向け、地域の課題に気づくことのできる力をつけることは、福祉実践者として重要なことである。地域の買い物弱者を支援する校内活動の取り組みを通して、観察力、発想力、課題解決力を身につける。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の居場所づくり」を校内で実施することや、社会福祉協議会等からの講義等を通して、地域の福祉課題について理解することで、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割について考える。 <p>【関連科目】社会福祉基礎 【協力機関】大分県社会福祉協議会 竹中・判田地域包括支援センター</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域の居場所づくり」に関する様々な地域の福祉課題についての講義・視察等通じた観察力・発想力・課題解決力（レポート） ○関係者へのアンケート（4段階評価、平均評価3.0） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）
<p>2-③ 福祉系高校との地域福祉活性化交流学習</p>	<p>〈目標〉 志を同じくする福祉系高校生との交流学习を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付けるとともに、共に地域の社会福祉リーダーを目指す。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉系高校生との交流学习会で、各校の地域活性化の取組を発表・交流し、外部講師による講演・講評を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付け、将来のネットワーク作りを見通した交流活動とする。 <p>【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】佐伯豊南高校、中津南高校耶馬溪校</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内の福祉系高校との交流学习（地域活性化の取組の発表・交流、外部講師による講演）等を通じたコミュニケーション力、リーダーシップ力（レポート、成果発表） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）

(3) マインド育成プロジェクト

研究のねらい

セミナーや研修を通して職場や地域で求められるリーダーとしての資質・能力、死生観・倫理観、認知症の理解力を高めることで、多様性を受容できる力、人間関係を調整できる力を身につけさせ、豊かな人間性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>3-① サーバントリーダーシップ等の視点による社会福祉リーダーの育成</p>	<p>〈目標〉 福祉現場は、チームワーク、ネットワークが重要である。強いリーダーシップではなく、他者を思いやり、人間関係調整力のある支持的リーダーを必要とする。これから求められる新しいリーダーのあり方（サーバントリーダーシップ）等を学び、実践できる力を養う。</p> <p>〈具体的内容〉 サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 【関連科目】介護総合演習、コミュニケーション技術 【協力機関】介護福祉士会等 【実施場所】大分南高校</p> <p>〈効果測定〉 ○社会福祉リーダーとしての資質を身に付けるためのサーバントリーダーシップ等の講義・演習等の受講を通じた理解の深まり（レポート） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>3-③ 地域の認知症理解力向上を目指したキャラバン・メイト養成研修</p>	<p>〈目標〉 高齢化の進展に伴う認知症高齢者の増加は、大きな社会問題となっている。専門職や専門施設のみでこの問題に取り組むことは難しく、認知症の理解者を増やすことが必要である。生徒自らが認知症に関する確かな知識・技術を身につけ、認知症キャラバン・メイトとなり、認知症サポーター養成講座の企画、運営を行うことで、地域の福祉力向上を目指す。</p> <p>〈具体的内容〉 認知症キャラバン・メイトを目指して、校内生徒、職員、保護者等対象の認知症サポーター養成講座に参加することで、校内・地域の認知症理解度を高めるための工夫を考える。 【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】大分県福祉保健部、大分市福祉保健部、竹中・判田地域包括支援センター 【実施場所】各研修場所</p> <p>〈効果測定〉 ○認知症キャラバン・メイト研修の受講や養成活動をとおしての認知症への理解の深まり（レポート） ○認知症キャラバン・メイト養成者数 20人 ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

(4) 発信力プロジェクト
研究のねらい

「先進プロジェクト」、「連携プロジェクト」、「マインド育成プロジェクト」で身につけた力を「発信力プロジェクト」で南高生地域福祉講座や、「おおいたの福祉力」提言活動、メディア等の活用等を通して企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>「福祉教育フェスティバル」の開催</p>	<p>「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「SPH中間発表会」を企画・運営する。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <p>【関連科目】全科目</p> <p>【実施場所】大分南高等学校</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「『福祉』南風プログラム」の取組等を披露するための「SPH中間発表会」の企画・運営・伝える力（福祉弁論の発表、レポート） ○福祉教育フェスティバル参加者数 400人 ○各種福祉弁論全国大会 入賞 ○「福祉教育フェスティバル」参加者へのアンケート実施（4段階評価 平均評価3.0以上）
<p>「『福祉』南風プログラム」の取組の映像等での記録・編集と情報発信</p>	<p>「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、イメージアップにつながる情報発信を目指して活用力・企画力・伝える力を身につけていく。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <p>【関連科目】全科目</p> <p>【協力機関】大分県教育庁チャンネル、報道機関</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「『福祉』南風プログラム」での取組等の映像記録化と、それを活用した様々な機会での情報発信する企画力・運営力・伝える力（企画書・レポート） ○「『福祉』南風プログラム」の取組の映像等の視聴者へのアンケートの実施（4段階評価 平均評価3.0以上）

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	担当教科・役割分担 (◎責任者) ※表1 研究内容番号
南 富美子	教諭	福祉科 ・全研究項目の把握・確認 ◎1-①、◎4-①、1-④、2-②、3-③、4-③
大井手 久美	教諭	福祉科 ・研究実務・全研究項目の把握・確認 ◎1-④、◎4-②、◎4-③、1-①、1-②、2-①、3-①、4-①
戸次 連実	教諭	福祉科 ◎1-⑤、◎2-①、1-③、2-③、4-④
児玉 美紀子	教諭	福祉科 ◎2-②、◎3-①、1-⑤、3-②、4-①
加藤 芙夕子	教諭	福祉科 ◎1-②、◎4-④、1-③、3-③、4-①、
福嶋 悠乃	教諭	福祉科 ◎3-③、◎2-③、1-②、1-④、2-①、4-①
道脇 法子	臨時講師	福祉科 ◎1-②、◎3-②、2-②、3-①、4-①
吉田 純子	臨時講師	福祉科 ◎1-③、1-⑤、2-①、4-②、4-③
首藤 愛美	臨時講師	福祉科 ◎1-③、1-①、2-①、2-②、2-③
廣瀬 富士夫	教諭	英語科 ◎1-⑤

【表1 研究内容番号】

1 先進プロジェクト	2 連携プロジェクト	3 マインド育成プロジェクト	4 発信力プロジェクト
①災害時の福祉支援力体験学習 ②介護ロボット等の有用性研究 ③認知症ケアメソッドの研究 ④福祉先進国視察研修 ⑤外国人支援の「Welfare English」習得学習	①大学との多職種協働学習 ②介護福祉施設等との地域の福祉課題解決学習 ③福祉系高校との地域福祉活性化交流学习	①サーバントリーダーシップ育成セミナー ②死生観・倫理観育成セミナー ③認知症キャラバン・メイト養成研修	①南高生地域福祉講座の実施 ②「おおいたの福祉力」の提言 ③「福祉教育フェスティバル」開催 ④メディア等を活用した南風プログラム発信

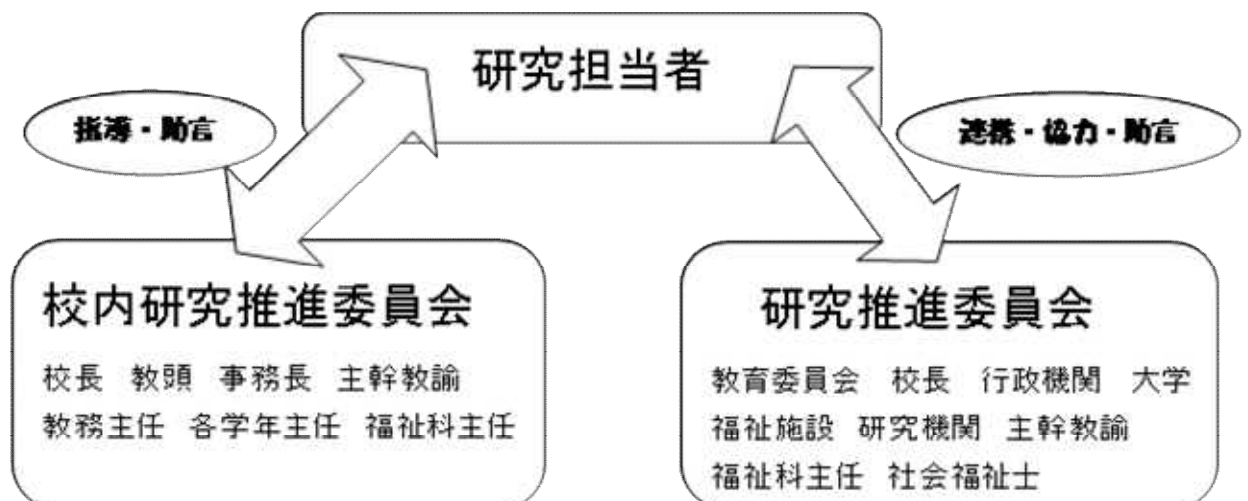
(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
鹿嶋 隆志	大分共同社会福祉士事務所・社会福祉士	・取組の全般 ・社会福祉 ・ソーシャルワーク
廣野 俊輔	大分大学 福祉健康科学部・講師	・取組の全般 ・社会福祉 ・福祉健康科学部との多職種協働学習
黒木 邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	・取組の全般 ・災害時の福祉支援力
衛藤 規久子	社会福祉法人 龍和会・理事 (大分南高校ネットワーク協議会会長)	・取組の全般 ・地域の福祉課題解決学習
佐藤圭一郎	大分県社会福祉介護研修センター 介護研修・総合相談部 主任	・介護ロボット等の研究
吉村 一彦	大分県福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班・主幹	・認知症キャラバン・メイト養成
徳地 喜和子	大分県教育庁高校教育課・ 指導主事兼主幹	・取組の全般
三代 順一	大分県立大分南高等学校・校長	・取組の全般
後藤 香代子	大分県立大分南高等学校・教頭	・取組の全般
小幡 英二	大分県立大分南高等学校・教頭	・取組の全般
秋月 芳枝	大分県立大分南高等学校・事務長	・会計全般
野村 浩之	大分県立大分南高等学校・主幹教諭	・取組の全般
甲斐 亮介	大分県立大分南高等学校・指導教諭	・取組の全般
南 富美子	大分県立大分南高等学校・福祉科主任	・取組の全般
大井手 久美	大分県立大分南高等学校・SPH担当	・取組の全般

(3) 運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
片岡 晶志	大分大学 福祉健康科学部 学部長	研究全体の評価 学識経験者・リハビリテーション医学全般
三浦 晃史	大分県介護福祉士会・顧問	研究全体の評価 社会福祉・介護福祉
大塚 悦子	社会福祉法人 みずほ厚生センター 四季の郷・施設長	研究全体の評価 介護福祉施設経営
衛藤 龍	医療法人社団親和会 衛藤病院・院長	研究全体の評価 地域医療・地域福祉
猪俣 知三	(株)大分放送・常務取締役	研究全体の評価 地域福祉・情報通信
鷲司 匡亮	(株)大銀経済経営研究所・調査企画部長	研究全体の評価 地域福祉・経済経営
黒田 光代	大分県福祉保健部高齢者福祉課・課長	研究全体の評価 福祉行政
久保田 圭二	大分県教育庁高校教育課・課長	学校教育

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

活動時期	活動の内容
4月	<p>コミュニケーション英語での Welfare English の習得 医療・福祉英語検定の合格（4級）を目指す（7月第1日曜、12月第1日曜） <福祉科2年>～3月 国東市『地域支え合い活動』教員視察</p>
5月	<p>来年度の活動に向けてグループ編成 <福祉科2年> ①福祉防災教室 ②介護ロボット活用 ③ノーリフティングケア ④認知症キャラバン・メイト ⑤介護予防体操 ⑥地域の居場所づくり ⑦外国人留学生との交流 ⑧「福祉教育フェスティバル」の企画、運営</p>
6月	<p>地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ① <福祉科2年> 国東市『地域支え合い活動』について講演 2時間×1回 講師：国東市社会福祉協議会 第1回研究推進委員会 第1回運営指導委員会</p>
7月	<p>外部講師による「ノーリフティングケア（抱え上げない介護技術）」を習得<福祉科2年> 講師：高知県高知市 一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク代表理事 下元 佳子 氏</p>
8月	<p>「ノーリフティングケア（抱え上げない介護技術）」を介護福祉施設で実践（介護実習①） <福祉科2年> 地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ② 国東市『地域支え合い活動』視察 生徒10名 引率教員2名 視察料 1人1000円 認知症キャラバン・メイトを目指して養成研修受講 生徒10名 引率教員2名 場所：大分市内</p>
9月	<p>介護ロボットを活用した介護支援技術の習得 講師：大分県社会福祉介護研修センター 介護ロボット等は大分県社会福祉介護研修センターよりレンタル 認知症キャラバンメイトを目指して、地域や校内生徒、職員、保護者等対象の認知症サポーター養成講座に参加 サーバントリーダーシップの講義 講師：日出町 明石二郎氏 講演料：90分 50000円</p>
10月	<p>福祉先進国視察（デンマーク）生徒4名、引率教員2名 （介護実習②） 地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ③ 地域住民の困りごとを把握し、できることを考える。 協力：竹中・判田地域包括ケアセンター 全国さんフェアポスター展示</p>

11月	<p>介護実習中に作成する「個別援助計画」を大分大学学生と多職種協働学習で作成する① 協力：大分大学福祉健康科学部 場所：本校 2時間×2回</p> <p>災害時における介護福祉士の役割を考える（体験学習） 協力：県福祉保健部、社会福祉協議会</p>
12月	<p>介護実習中に作成する「個別援助計画」を大分大学学生と多職種協働学習で作成する② 協力：大分大学福祉健康科学部 場所：本校 2時間×2回</p>
1月	<p>福祉系高校との交流学习（佐伯豊南、耶馬溪）</p> <p>地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ④ ニーズにあった支援の実施（例）ゴミ出しや掃除等の手伝い</p> <p>第2回SPH研究推進委員会 第2回SPH運営指導委員会</p>
2月	<p>『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「SPH中間発表会」を企画・運営する。（事例研究発表会）</p>
3月	

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
※特になし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 (無)

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載